

デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生推進タイプ）活用事業について

no	事業名	R5事業費等	評価指標及び実績値					事業内容
		単位：円	指標	年度	KPI	実績値	単位	
1	■交通モードの利活用により十勝地域の内外をつなぐ 交流人口拡大推進事業 本事業は、新型コロナウイルス感染症の影響により落ち込んだ十勝地域内の外出機会や観光客数の早期回復に向け、また、とがち帯広空港の民営化が始まり道内他空港とのネットワークの強化を見据え、地域住民に必要な交通サービスの改善や、旅行者動態を踏まえた移動利便性を高めることで、持続可能な地域交通を目指し、関係・交流人口の創出・拡大による交流の活性化やまちへの定着を目指すもの。 ※交付金の利用状況 R3～R5 ※十勝全域の広域連携事業	全体事業費 13,414,703	①十勝管内の乗り合いバス・タクシーの人口千人当たりの年間利用者数	事業開始前	22,067	—	人	【令和5年度実施事業】 1. 地域住民向けのワークショップの実施 2. 相互情報共有SNSサイトの作成と運営 3. 衛生環境を維持確保する仕組みの検討 4. 観光・移住のコンテンツデータを活用したプロモーションの実施 5. 観光客や移住希望者の誘導に向けた交通旅行商品の実証事業
				R3	22,118	14,764		
				R4	22,170	16,693		
				R5	22,272	集計中		
				増加分累計	205	-5,374		
		うち 鹿追町分 事業費 492,190	②十勝管内の観光入込客数	事業開始前	10,264.5	—	千人	
				R3	10,315	7,111		
				R4	10,380	10,289		
				R5	10,460	11,446.1		
				増加分累計	195.5	1,181.6		
		交付金 246,095	③十勝管内へのちょっと暮らし滞在数	事業開始前	13,005	—	日	
				R3	13,205	6,874		
				R4	13,505	14,373		
				R5	14,091	集計中		
				増加分累計	1,086	1,368		
2	■高校を核とした新たな人づくり・人の流れづくりプロジェクト 本事業は、島根県と県内14自治体が連携し実施した、高校魅力化・教育の魅力化から、「しまねに定着、回帰・流入する人の流れづくり」を目指すプロジェクトを発展させた事業で、（一財）地域・教育魅力化プラットフォームが主催する「地域みらい留学」等を通じて全国各地で高校を核とした地方創生を進める自治体と連携し、地方の高校への進学の定着化を目指すもの。 ※交付金の利用状況 R2～R6（鹿追町はR5～R6に利用） ※島根県を中心とし全国の自治体に参加する広域連携事業	全体事業費 1,714,113,064	①「高校を核とした関係人口」の数 （＝地域みらい留学生徒数＋卒業後も地元に関わった大学生・社会人数＋地域外からの高校への応援者数）	事業開始前	2,360	—	人	【令和5年度実施事業】 1. 地方の魅力的な教育環境を都市部へ届け、地方の高校への留学という選択肢をつくる 2. 高校と地域の協働により魅力ある教育環境をつくる 3. 全国の自治体間での共学共創により全国ハスケールアウト（拡散）させる
				R5	2,995	集計中		
				R6	3,814			
				増加分累計	1,454	0		
		うち 鹿追町分 事業費 12,645,395	②「都市部での地方高校全国説明会」参加者数	事業開始前	2,093	—	人	
				R5	2,523	2,071		
				R6	3,090			
				増加分累計	997	-22		
		交付金 6,094,562	③「地域課題解決学習全国大会」エントリプロジェクト件数	事業開始前	292	—	件	
				R5	412	1,031		
				R6	676			
				増加分累計	384	739		
			④「共学共創ネットワーク」参加自治体・学校数	事業開始前	55	—	団体	
				R5	64	74		
				R6	74			
増加分累計	19			19				

〈R5実績〉第2期 総合戦略KPIについて

戦略 番号	項目	指標	現状値 (H30年度)	1年目	2年目	3年目	4年目	目標値 (R5年度)	目標に 対する 実績率	R5実績評価	総合戦略 該当ページ
				R2年度実績	R3年度実績	R4年度実績	R5年度実績				
戦略1	学校教育	鹿追高校での英検2 級取得者数	5	5	7	5	7	10	70%	積極的に英検受験を奨励し、多くの生徒が受験したことで、目標を設定した学習意欲の向上につながっており、着実に英語力が向上している。	10
戦略2	農業（経営・基盤整備）	国営・道営農業基盤整備事業の実施地区数	5	5	4	4	4	4	100%	全体的に当初スケジュールを変更することなく、事業計画とおり整備が進んでいる。	12
		多面的機能支払事業実施事業費（千円）	101,430	101,369	101,342	101,323	101,323	101,000	100%	全体的に当初スケジュールを変更することなく、事業計画とおり活動が実施されており、本事業に対する理解や評価も良い。	12
戦略3	農業（安心・安全な農業）	環境保全型農業直接支払交付金事業取組者数	34	22	24	23	23	35	66%	全体的には当初のスケジュール通りに実施することができた。	14
		加工品開発製造支援件数	63	85	49	52	30	70	43%	町内施設において月に1回開催する、町民向けの食品加工品作り体験について、開催自体は例年通りの回数を実施したが、申込件数が少なく、件数の実績額が例年より低くなってしまった。	14
		GAP取組者数	105	115	114	114	114	110	104%	全体的には当初のスケジュール通りに実施することができた。	14
戦略4	農業（持続可能な農業）	バイオガスプラントによるバイオマス資源活用量（t）	152,500	161,534	161,652	176,398	173,563	181,000	96%	家畜排せつ物等の廃棄物がバイオマス資源として有効活用された。	16
		バイオマス事業における雇用数	19	23	21	22	23	27	85%	目標まで達していないが、安定的な雇用を生んでいる。	16
		水素エネルギーの利活用による水素製造量（m）	25,208	18,461	26,484	54,214	63,582	50,000	127%	バイオガスによる水素利用が推進されている。	16
戦略5	商工業	商工会会員数	169	164	162	158	154	165	93%	事業者が抱える課題に対し、問題点の解決や新たな販売機会の創出、売上増加に向け、経営戦略や事業計画の提案を行った。また、利益確保に向けた税務・金融支援については、利子補給事業を実施し、コロナ禍で割増した支援利率を継続して支援した。	18
		道の駅連携イベント実施数	2	0	0	0	0	10	0%	計画していた町外の道の駅との連携事業は実施しなかったが、その代わりとして、道の駅芝生広場にてキッチンカーイベントを開催し、町内や近隣町からの観光客誘客に努めた。	18
戦略6	エネルギー	自営線ネットワーク事業にかかわる雇用人数	0	1	1	1	1	1	100%	計画通り、安定して雇用を継続している。	20

【基本目標（1）地域における安定した雇用を創出し、これを支える人材を育て活かす】

戦略 番号	項目	指標	現状値 (H30年度)	1年目	2年目	3年目	4年目	目標値 (R5年度)	目標に 対する 実績率	R5実績評価	総合戦略 該当ページ
				R2年度実績	R3年度実績	R4年度実績	R5年度実績				

【基本目標（2）地域への新しいひとの流れをつくる】

戦略7	学校教育	親子留学者数	5	8	13	11	8	10	80%	目標の10人に達していないが、親子留学制度を利用せずに親子で移住する方もいることから、実際には数字以上に親子留学者がいる。	22
戦略8	観光	観光客数	742,000	598,700	590,200	658,500	659,400	872,000	76%	少しづつ観光客が戻りつつあるが、新型コロナウイルス感染症の影響が尾を引き、最盛期の観光入込客数には及んでいない。	24
戦略9	ジオパーク	とかち鹿追ジオパーク ビジターセンター来館者数	3,000	1,933	2,197	3,139	8,574	3,300	260%	町内で発見された新種鉱物「北海道石」が各種メディアに取り上げられ、大きな反響があり、来館者数の大幅増に繋がった。これにより、ジオパーク活動の意義や価値をこれまで以上に多くの方に伝えることができた。	26
		とかち鹿追ジオパーク 講座・ツアーなどの受講者数	400	257	642	728	1,650	600	275%	10周年記念事業「ジオ絵本カーニバル」の実施により、多くの地域住民へジオパーク活動の意義や価値を伝えることができた。また、北海道石やナキウサギなど、多くの方が関心を持つ事柄を講座内容として扱ったため目標値を超えることができた。	26
戦略10	花、公園	花によるまちのきれいさ（％）	97	85	81	91	88	110	80%	花苗等は順調に生育し、道路・公共施設等への植栽は予定通りに実施することができた。	28
		フラワーマスター人数	67	60	60	57	54	68	79%	2022年度よりさらに会員が減少した。新たに会員になる人は少なく、高齢化も進み、会員数を維持することが難しい。	28
戦略11	交流	受入れホスト家庭数	308	318	318	318	327	358	91%	目標値358との乖離は大きいものの、2023年度の実績は受入れホスト家庭9件の増加であり、指標の改善に大きく寄与した。4年ぶりの交流事業再開となったが、短期留学・相互住民長期滞在事業ともに、十分な成果を上げることができた。	30
		国内姉妹提携都市数	0	0	0	0	0	1	0%	姉妹都市提携には全っていないが、児童派遣事業の再開、ふるさと交流ショップ、環境フェスタ、ふるさとPRフェスタへの出店など各種事業が展開できている。	30
戦略12	行政運営	十勝管内の観光入込み客数 （延べ人数）（万人）	1,033	1,026	707	711	1,029	1,046	98%	コロナ禍においては実績値の落ち込みが見られたが、2023度においては改善が見られた。	32
		十勝管内バス乗客数（万人）	459	451	326	328	355	464	77%	コロナ禍において落ち込みがみられ、2023度においては回復したものの、未だ目標値との乖離が大きい。	32

戦略 番号	項目	指標	現状値 (H30年度)	1年目	2年目	3年目	4年目	目標値 (R5年度)	目標に 対する 実績率	R5実績評価	総合戦略 該当ページ
				R2年度実績	R3年度実績	R4年度実績	R5年度実績				

【基本目標（3）若い世代の結婚・妊娠・出産・子育ての希望をかなえる】

戦略13	子育て支援	この地域で子育てしたいと思う保護者の割合（％）	97.7	94	90	96	82	100	82%	母子での交流の機会や産後ケア等相談の機会を増やすなど、子育てに関する事業を充実させているが、地域の子育て環境への満足感は減少している。子育て世帯のニーズを更に把握していき、子育て環境を整えていきたい。	34
		子育て世代包括支援センターを知っている妊婦の割合（％）	0	-	42.3	43	41.6	50	83%	相談窓口の周知については、高校生の健康教育やアプリなどで周知を図った。認知度は若干減少している。また、相談窓口の名称も変更になるため、更に相談窓口を周知していく必要がある。	34

【基本目標（4）時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する】

戦略14	高齢者福祉	高齢者福祉総合相談者数	357	133	203	419	392	400	98%	2022年度から居宅支援事業所の開設、2023年度から成年後見支援センター開設を社会福祉協議会に業務委託することにより、相談窓口が分散している。昨年度よりは相談件数が減ったが、目標達成率は98%で、住民に寄り添った相談窓口対応ができています。	37
		ボランティア会員数	160	143	160	148	187	200	94%	2022年度までより大きく会員数を伸ばすことができた。	37
戦略15	防災	市街地区行政区の防災訓練（行政区）	0	0	0	0	0	10	0%	市街地区行政区を対象とした防災訓練の実施は、新型コロナウイルス感染症の影響が尾をひき活動が停滞している行政区において申し込みがなかったが、2023年度に開催した「防災・防火フェスティバルinしかおい」において地域防災委員研修を行い、広く防災意識の普及を図ることができた。	40
戦略16	情報通信	農村地区の情報通信高度化事業（事業着者前を0・着手（将来目標）を1）	0	1	1	1	1	1	100%	当初2023年度時点における「事業着手」をゴールとしていたが、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金の有効活用により、2021年度において「整備完了」まで進めることができた。	42
戦略17	コミュニティ	無作為抽出による会議などへの参加件数	0	0	1	0	2	5	40%	これまで無作為抽出による会議参加が進まなかったが、2023年度においては総合計画策定等において実施することができた。	44
		ふれあいトークへの参加人数	0	63	20	56	46	300	15%	新型コロナウイルス感染症の影響が続き依然慎重な開催となっている。日程の都合で実施できないこともあったがカフェトーク1回、出前トーク2回開催している。	44
		行政区支援事業への参加数（行政区）	24	8	8	8	10	35	29%	新型コロナウイルス感染症の影響が続き活動を制限していた行政区もみられたが、2022年度よりも多い10行政区が活動を実施した。	44
戦略18	財政運営	行財政改革による経常的経費の削減効果（年間）（千円）	0	91,499	80,614	150,754	69,725	100,000	70%	行財政改革推進本部において、新たな財政効果の提案をいただくなど、職員一丸となり目標達成のため取り組んできたところであるが、達成率は7割にとどまった。	46

令和6年度 鹿追町まち・ひと・しごと創生推進会議 意見・回答一覧

項 目	意見内容	回 答
KPIに関する意見	戦略1：学校教育 鹿追高校での英検2級取得者数に関して、目標値を達成していませんが、なぜ達成しなかったのかの評価・分析が不十分であり、なぜ達成していないのか、達成のために今後どうするのが不明です。	今回の目標設定は、これまでの鹿追町の取り組みの中から難易度の高い目標を設定しました。対策として、オンライン公設塾の入塾者に対し受験費用の助成を開始して受験機会の確保を図っているところです。今後も目標達成のため、引き続き英検受験意欲の向上に取り組んで参ります。
	戦略2：農業（経営・基盤整備） 多面的機能支払事業に関して、本町農村地区の景観維持と農地安全管理に非常に大きな役割を果たしていることから、今後もさらなる事業の拡充と拡大を期待します。	多面的機能支払事業は、2014（平成26）年度に法制化されたことにより恒久的な事業となりました。地域共同で行う多面的機能を支える活動や、地域資源（農地、水路、農道等）の質的向上を図るため、今後も継続的に取り組んで参ります。
	戦略3：農業（安心・安全な農業） 環境保全型農業直接支払交付金の事業取組者数・加工品開発製造支援件数に関して、目標値を達成していませんが、なぜ達成しなかったのかの評価・分析が不十分であり、なぜ達成していないのか、達成のために今後どうするのが不明です。	環境保全型農業直接支払交付金の事業取組者数については、目標設定時の令和元年より離農が進み農家戸数が減少していることが、達成できなかった主な要因です。そのような中、取組者数を少しでも維持しようと交付金の活用の推進をしているところです。今後も引き続き、交付金活用の推進を図ります。 加工品開発製造支援件数については、住民向けの食品加工品作り体験の実績数を計上しておりますが、新型コロナウイルス感染症の蔓延以降、加工施設に集まる住民が減っていることが、達成できなかった主な要因です。今後はより充実した内容の食品加工品作り体験を開催して参ります。
	戦略4：農業（持続可能な農業） バイオガスプラントに関してです。本町の限られた農地を最大限活用するには、今後も発生する離農跡地から遊休農地を出すことなく、拡大意欲ある担い手が継承し、一定の経営規模拡大が必要となります。 そのことから、バイオガスプラントの整備の希望のある地区への早期建設や、既存施設についても経営規模拡大に対応した施設の拡充が必要ではないでしょうか。	3基目のバイオガス施設に関しましては、2020（令和2）年度にマスタープランの策定していたところでありますが、国際情勢の変化による建設費の高騰や、製造されるバイオ液肥に対して利用が少ないという問題もあり、建設することが厳しい状況でした。 2025（令和7）年度に新たにマスタープランを策定し、今後ひとつひとつの課題を精査し、建設に向け慎重に検討して参ります。
	戦略5：商工業 道の駅連携イベント実施数の実績が「0」であることに對して、代替事業等を実施していることを評価していますが、評価としては不適切であり、自身で設定した指標や目標値を軽視しているのではないのでしょうか。	目標値を軽視しているわけではありませんが、新型コロナウイルス感染症が令和5年5月8日から5類感染症に移行したものの、観光客の動向を注視しながら令和5年度は開催を見送ることとしました。今後は定期的な開催を実施して参ります。
	戦略11：交流 国内姉妹提携都市数の実績が「0」であることに對して、代替事業等を実施していることを評価していますが、評価としては不適切であり、自身で設定した指標や目標値を軽視しているのではないのでしょうか。	目標値を軽視しているわけではありませんが、相手方がすでに結んでいる他自治体との姉妹提携等の影響もあり、本町が姉妹都市提携を結ぶには至ることができませんでした。そのような中でも、相互の交流の発展につなげることができそうなイベント等に積極的に出店し、少しずつですが連携を活発化させることができました。
	戦略15：防災 市街地区行政区の防災訓練の実績が「0」であることに對して、代替事業等を実施していることを評価していますが、評価としては不適切であり、自身で設定した指標や目標値を軽視しているのではないのでしょうか。	目標値を軽視しているわけではありませんが、市街地行政区からの防災訓練の希望がなく、目標値を達成できませんでした。しかし、そのような中でも、各行政区・住民に対し広く防災意識を普及するために「防災・防火フェスティバル」を開催しました。このことにより住民の防災意識を高め、今後の防災訓練の実施数につなげていく予定です。

令和6年度 鹿追町まち・ひと・しごと創生推進会議 意見・回答一覧

項 目	意見内容	回 答
KPIに関する意見	戦略17：コミュニティ 町長とのふれあいトークの回数をもう少し増やしてほしいです。気楽に話すよりもう少し踏み込んだ話したいです。	開催回数について、カフェトークはここ数年、年1回の開催となっていました。計画的に年2回程度の実施できるよう努めて参ります。行政区等からの要望により実施する出前トークは、申請件数がおよそ年2～3件程度であり、制度の周知が足りなかったようにも感じております。今後、実施条件なども含めて改めて周知して参ります。 また、カフェトークは1人でお申込みいただければ決められた時間の中で町長と1対1で話すことができ、出前トークは少人数の参加者で申込みすることができるため、町長に質問しやすい雰囲気があり、踏み込んだ話が出ることも多いです。ぜひ、本当に気になっていることについてストレートにお話しいただければ幸いです。

項 目	意見内容	回 答
交通モードの利活用により地域の内外をつなぐ交流人口拡大推進事業	—	—
高校を核とした新たな人づくり・人の流れづくりプロジェクト	—	—